

中期五ヶ年経営計画のための事業評価シート

資料 9-5

【一般社団法人ばんえい競馬馬主協会】

<計画年度:平成29年度～平成33年度>

事業名	共済事業	定款条項	第4条第1項第4号事業【ばんえい競走馬の共済に関すること】	評価年月	平成29年1月
-----	------	------	-------------------------------	------	---------

事業運営方針	○ばんえい競走馬の事故による損害を軽減するため、競走馬の斃死等に対し弔慰金を支給する。				
本計画の目標	1	競走馬の取引実勢価格の動静に見合った弔慰金の額の設定及び変更	3	弔慰金給付の迅速化	
	2	単年度の事故馬頭数に影響されない安定的財源による運営			
具体的な取組み	1	執行役員会において弔慰金給付額の査定を行い、給付金を決定する	手続	事故申告⇒給付申請⇒給付額の査定⇒給付金の決定⇒請求書⇒弔慰金の給付 (これが一連の処理については、競走馬を預託している調教師が馬主の代理で関係書類を添えて事故申告を行い、これに基づき事務局が代行して申請手続きを行う)	
	2	給付対象馬主に弔慰金の給付を行う			

◎過去五ヶ年の事業費の推移(正味財産ベース)

(単位:千円)

年度	平成24年度 (実績)	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (予算)	
経常収益	37,730	35,656	37,479	36,460	36,335	
内訳	事業収益	6,735	6,377	5,893	4,626	4,980
	受取補助金等	995	995	995	995	995
	受取負担金	30,000	28,255	30,571	30,819	30,360
	雑収益	0	29	20	20	0
経常費用	24,988	27,351	23,511	16,182	22,482	
内訳	共済事業費	7,820	9,459	6,416	3,616	7,800
	出走申込等事業費	2,913	2,739	2,293	1,195	1,300
	連絡調整事業費	1,551	1,154	1,494	1,387	2,310
	防疫衛生事業費	3,881	3,675	3,183	3,242	3,290
	事業管理費	8,823	10,324	10,125	6,742	7,782
経常外費用	0	0	0	0	0	
他会計振替額	△ 12,742	△ 8,305	△ 13,968	△ 20,278	△ 13,853	

◎本事業の現状と課題等

【現状】	【課題】
①当該事業において、現状、2歳テスト馬は4月1日以降入きゅう馬を対象としている。 ②弔慰金の額は今年度から増額となったが、競走馬の取引実勢価格を考慮しても、未だ充分な弔慰金の額に至っていない。	①諸般の事情により帯広市は、1歳(明2歳馬)の入きゅうを認めていることから、今後、これらの馬の救済措置についても検討すべきか。 ②弔慰金の額については、共済負担金とのバランスを保ちながら、定期的に見直しが必要である。

◎本事業の今後の方向性等(見直し改善案等)

【方向性】	【新規事業検討(案)】
①対象となる競走馬が斃死、廃用によって損害が生じたときに一定の基準により弔慰金を給付する。支給に際しては、事故発生状況を勘案し迅速かつ確かな支払に努める。 ②弔慰金の給付基準については、競走馬としての実勢価格の動静を常に注視し、これに合わせて適宜変更するなど必要な措置を講じる。 ③安定的な事業運営を図るため、出走共済負担金、能検共済負担金の額については、対象事故の発生状況や弔慰金の支給状況等を勘案して、三年を目途に適正な額に見直しを図る。	①帯広市が入きゅうを認めている1歳(明2歳馬)登録申請馬の事故救済措置について検討する。

◎評価基準

A	現行の事業規模・同内容で継続する	必要性	◎
B	現行の事業規模を拡大し、同内容で継続する	妥当性	◎
C	現行の事業規模を拡大し、内容を見直して継続する	有効性	◎
D	現行の事業規模を縮小し、同内容で継続する	効率性	○
E	現行の事業規模を縮小し、内容を見直して継続する	公平性	○
F	現行の事業内容を見直して継続する	予算規模	△
G	この事業は目的を達成したので廃止又は休止する	執行体制	○

【総合評価・意見等】

当該事業は、馬主の損害軽減のために実施している事業なので、基本的には、適宜見直しを図りながら継続することが必要であるが、今回、新たに1歳(明2歳馬)を救済の可能性について検討する。(馬個体の確認方法、負担金徴収方法、弔慰金の額など)なお、十分な調査検討が必要で、性急すぎる結論は、避けるべきだ。

判定
C